

大分大病院

薬の正しい「知識」「飲み方」

14日、市民講座「八方塾」

大分大学病院は14日午後5時から、由布市の同病院外来ホールで市民公開講座「第15回八方塾」を開催する。同病院薬剤部の佐藤雄己副部長と龍田涼佑主任が講演する。入場無料。2人は次のように話し、来場を呼び掛けている。

▼佐藤副部長「薬の正しい知識」  
耐性菌と抗菌薬(抗生物質)はほとんどの人が処方された経験があると思います。この抗菌薬の開発で、世界中でたくさんの方の命を奪ってきた「感染症」の脅威は小さくなりました。

「ポリファーマシー」とは、数多くの薬を飲んでいて、それによって患者に好ましくない状態が生じていることです。服用している薬の数が増えれば増えるほど、

しかし近年、抗菌薬が効かない病原体(耐性菌)の種類や数が増え、大きな社会問題となっています。その要因の一つとして抗菌薬の間違った使い方が指摘されています。「風邪には効く」「抗菌薬を飲むと何が起こるの」「抗菌薬以外にほかの選択肢はあるの」「なぜ抗菌薬を大事に使わないといけないの」など、抗菌薬に関する疑問について解説します。

▼龍田主任「薬の正しい飲み方」  
使い方をポリファーマシーとは？

「ポリファーマシー」とは、数多くの薬を飲んでいて、それによって患者に好ましくない状態が生じていることです。服用している薬の数が増えれば増えるほど、

高年齢者は10種類以上の薬を服用しているケースもありますが、処方上の問題(副作用や飲み合わせなど)がなければポリファーマシーではありません。一方で、3種類程度でも好ましくない状態が発生していればポリファーマシーです。「クスリ」は「リスク」を併せ持ちます。正しく使わなければ思わぬ副作用を引き起こすこともありま

す。正しく、より効果的に薬を使うためのポイントを紹介します。

問い合わせは同大学医学部医事課患者サービス係(☎097・586・5250、月曜から金曜の午前9時から午後5時まで)。



佐藤雄己副部長



龍田涼佑主任